

オオカミ

Canis lupus (Linnaeus)

ネコ目イヌ科

石川県カテゴリー 絶滅

国カテゴリー 絶滅

選定理由 近年まで生存していたものの、現在では絶滅したとされている。

形態 全体に灰褐色から黒褐色の色をしている。尾が太く房状をしていること、歯は切歯、犬歯、小臼歯（裂肉歯）、大臼歯が明瞭に分かれ、イヌ科の他の動物と似ているが裂肉歯が大きいことで区別できる。頭胴長95～114cm、尾長30cmが記録されている。

国内分布 かつて、北海道にはエゾオオカミ、本州、四国、九州にはニホンオオカミが生息した。エゾオオカミは1800年代に絶滅したと推定されており、ニホンオオカミは1905年に奈良県鷲家口での捕獲が最後で、現在生息の確認はない。

県内分布 150年前までは金沢周辺から、能登半島、白山麓にかけて生息していたとの話がのこされており、県内に広く分布していたものと思われる。また、県立七尾高等学校にニホンオオカミの毛皮の標本が残されている。

生態 他のイヌ科動物と同様、繁殖期には雄雌1対の家族集団を作り、子供を育てる。通常は、群れをなし、シカ、イノシシなどの草食動物を襲う。

参考文献 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 1997. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. pp195.
千葉徳爾 1993. 金沢に出没!!ニホンオオカミ. はくさん87. 石川県白山自然保護センター. p2-7.

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

カワウソ

Lutra lutra (Linnaeus)

ネコ目イタチ科

石川県カテゴリ 絶滅

国カテゴリ 絶滅

選定理由

近年まで生存していたものの、現在では絶滅したとされている。

形態

背面はややくすんだ褐色で、胸から腹側は白っぽい毛色をしている。四肢の指の間には水掻きがあること、尾が太く円錐形をしていること、歯は大きく鈍臼歯状であることからほかのイタチ科の動物と区別できる。頭胴長70cm、尾長46cm、体重8kgが記録されている。

国内分布

かつて、北海道から九州まで、対馬などの離島を含めた河川の下流部に生息したが、現在では高知県南西部で生息が確認されているにすぎない。

県内分布

かつて犀川、浅野川、手取川などにカワウソにだまされたという民話がのこされており、県内に広く分布していたものと思われる。白山市の旧尾口村、旧吉野谷村地区では大正期に目撃した例が残されており、また、七尾市の熊淵川で昭和初期まで生息していたという。

生態

河川の中下流部から沿岸部に生息し、水中で魚類、甲殻類、陸上で野ネズミ、鳥類などを補食する。川岸に巣穴を掘り、家族単位で生活する。

生息地の条件

種の存続が可能な個体数が生存できるだけの豊富な魚類などの餌が四季を通じて得られ、溪畔林や草地など人為的攪乱の少ない広大な生息環境が必要。

絶滅の原因

良質な毛皮のため乱獲されるとともに、全国的な河川改修やそれに付随する溪畔林や草地が破壊され、さらに河川環境の悪化に伴う餌となる魚の量の不足などが重なり、日本では絶滅の道をたどった。

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

ノレンコウモリ

Myotis nattereri

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

北海道、本州、四国、九州から確認されているが、生息が確認されている県は15県ほどである。

県内分布

白山市尾添の冬季用隧道でのみで確認されている。

生態

屋間のねぐらは、洞窟などが知られている。冬眠場所および出産・哺育場所も洞窟を利用することが知られている。

生息地の条件

自然林内に生息する。

生存の危機

生息する可能性のある自然林が限られた地域にしか存在しない。(A)

特記事項

原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。

参考文献

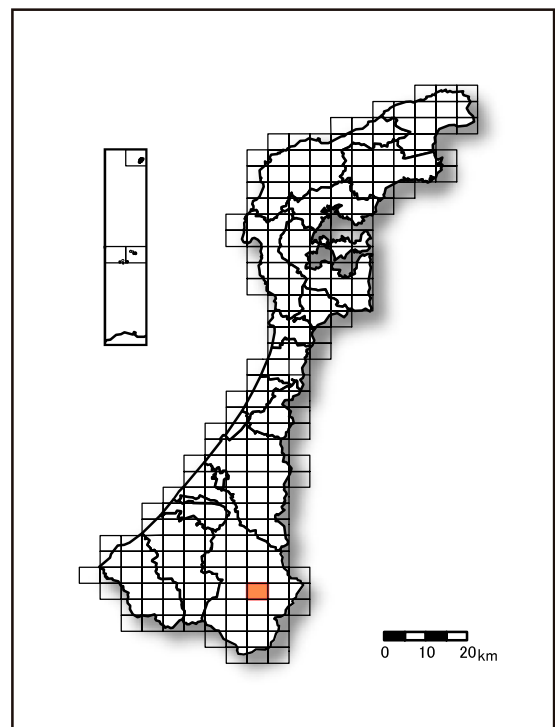
コウモリの会 2005. コウモリ識別ハンドブック. コウモリの会編. 69pp. 文一総合出版

前田喜四雄 2008. コウモリ. (阿部永, 監修: 日本の哺乳類[改訂2版]) pp. 25-64, 159-169. 東海大学出版会. 秦野.

佐藤顕義・勝田節子・山本輝正 2008. 大井川水系および天竜川水系で確認したノレンコウモリ *Myotis nattereri* の出産哺育と周年活動. コウモリ通信 16: 2-9.

山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相. 石川県白山自然保護センター研究報告. 29: 73-76.

山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査-1998年~2005年の調査結果より-. 石川県白山自然保護センター研究報告. 32: 25-30



県内の分布

クロホオヒゲコウモリ

コウモリ目ヒナコウモリ科

Myotis pruinus Yoshiyuki

石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

国カテゴリ 絶滅危惧 IB 類

選定理由

ブナ林帯より下部の森林帯や照葉樹林帯の林に生息していたと想像されているが、現在ではその林の分布が分断され、わずかな個体群が点々と残存しているだけと考えられる。

国内分布

本州、四国、九州から知られている。

県内分布

県内では、白山市白峰地区の市ノ瀬と六万山周辺と同市中宮の2箇所が生息が確認されている。

生態

森林内で飛翔している中型・小型の昆虫（ガやガガンボ等）を餌としている。他の森林棲のコウモリと同様の生態をしているものと考えられるが、詳しくは不明である。6月頃に出産を行い、10月頃に子供は独立するようである。

生息地の条件

本州では、ブナ林帯より下部の森林帯や照葉樹林帯に分布する林に広く生息していた。

生存の危機

低山の照葉樹林等はほとんどが残されていないため、生息地が分断され、わずかな個体群が点々と残存しているのみと予想され、きわめて危機的な状況といえる。(A)

特記事項

生息の確認された2地点ともに当歳獣が確認されており、白山市白峰地区の市ノ瀬の六万山周辺及び同市中宮の森林は、クロホオヒゲコウモリの繁殖地として特に重要であり、両地区周辺の森林の保全が望まれる。

参考文献

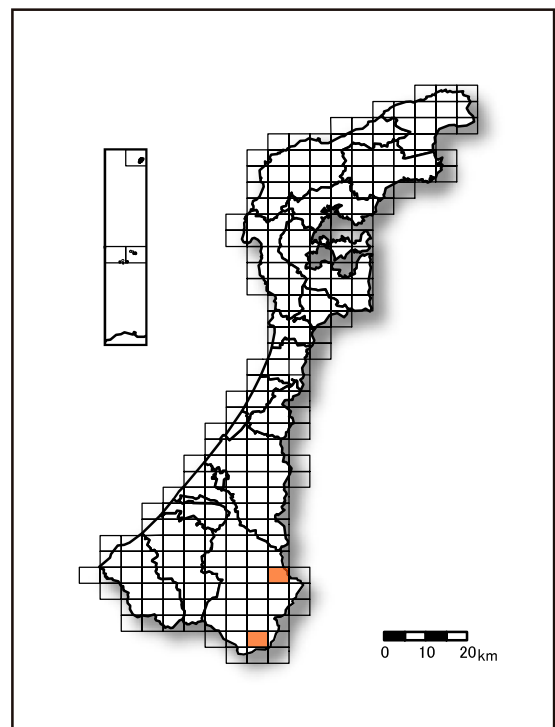
山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編), 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.

山本輝正 1994. 白山石川県側のコウモリ1. 岐阜ふるさとと動物通信, 60, p967.

山本輝正 1995. 白山石川県側のコウモリ2. 岐阜ふるさとと動物通信, 62, p996.

山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 29: 73-76.

山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年～2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告, 32: 25-30.



県内の分布

モリアブラコウモリ

Pipistrellus endoi Imaizumi

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

日本固有種で、本州と四国から確認されている。

県内分布

白山市（旧吉野谷村）中宮のみで確認されている。

生態

屋間のねぐらは樹洞であるが、詳しい生態は不明である。

生息地の条件

自然林内に生息する。

生存の危機

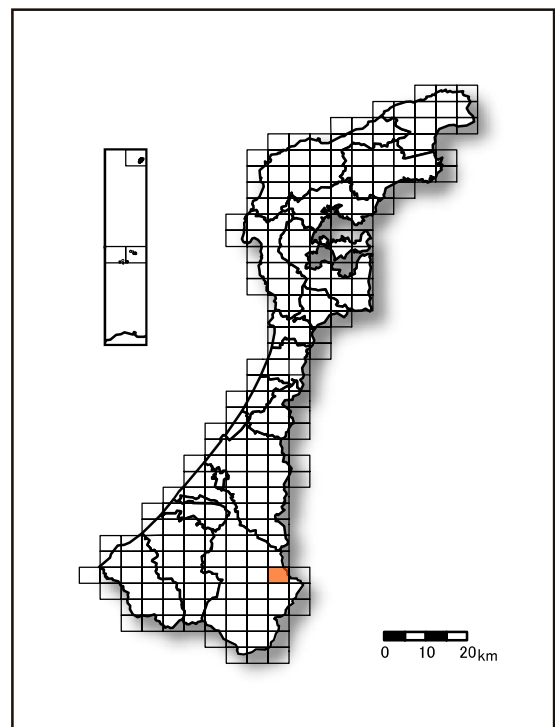
生息する可能性のある自然林が限られた地域にしか存在しない。(A)

特記事項

原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。白山市中宮では、授乳中のメスが捕獲され、出産・哺育が確認されている。白山市中宮の森林は、モリアブラコウモリの生息にとって特に重要であると言える。周辺の森林の完全なる保存が望まれる。

参考文献

- コウモリの会 2005. コウモリ識別ハンドブック. コウモリの会編. 69pp. 文一総合出版.
前田喜四雄 2008. コウモリ. (阿部永, 監修: 日本の哺乳類[改訂2版]) pp. 25-64, 159-169. 東海大学出版会, 秦野.
山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相, 石川県白山自然保護センター研究報告. 29: 73-76.
山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査-1998年~2005年の調査結果より-. 石川県白山自然保護センター研究報告. 32: 25-30.



県内の分布

クビワコウモリ

Eptesicus japonensis Imaizumi

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

国カテゴリ 絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

日本固有種で、これまでに福島県、栃木県、埼玉県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県において確認されている。

県内分布

舩倉島と白山市（旧吉野谷村）中宮の2箇所を確認されている。

生態

屋間のねぐらは樹洞であるが、樹洞が少なくなっているため、現在では家屋の壁板の下や天井裏で出産・哺育する例も知られている。後者の場合は100頭を超える大きな群を作る。

生息地の条件

自然林内に生息する。

生存の危機

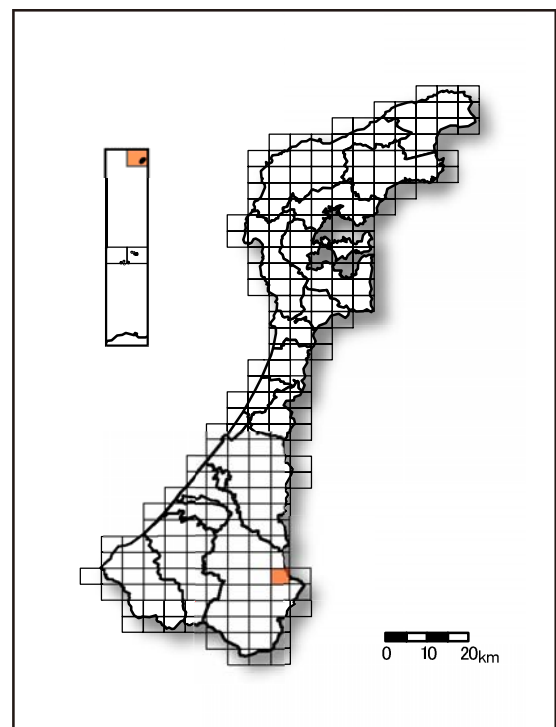
現在までに、福島県、栃木県、埼玉県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県において生息が確認されているが、出産・哺育が確認されているのは、長野県、石川県、岐阜県のみである。
(A)

特記事項

原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。白山市中宮では、授乳中のメスが複数捕獲され、出産・哺育が確認されている（山本ら 2005）。白山市中宮の森林は、クビワコウモリの生息にとって特に重要であると言える。周辺の森林の完全なる保存が望まれる。舩倉島で確認されたクビワコウモリが、どこから移動してきた個体なのか不明である。

参考文献

前田喜四雄・原田正史・竹田伸一・野崎英吉 1992. 舩倉島でとれたクビワコウモリ. 石川県白山自然保護センター研究報告. 19: 87-89.
山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年～2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告. 32: 25-30.



県内の分布

アズミトガリネズミ

Sorex hosonoi Imaizumi

モグラ目トガリネズミ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由 県内では、白山地域の山地帯から高山帯を中心とする限られた地域に分布する。日本固有種。

形態 トガリネズミ類では中型で、尾が長い。背面が暗褐色、腹面はより淡色。トガリネズミ類ではシントウトガリネズミよりやや小型で尾が長く、体重約4.5g前後、頭胴長46～66mm、尾長47～52mm、後足長10.6～12.2mm。頭骨全長は通常16.5mm以下でシントウトガリネズミより著しく小さい(阿部ほか2005)。シントウトガリネズミの後足長は通常12mm以上あるが(子安1995、子安・林1997)、白山地域で採集されたアズミトガリネズミの10頭の計測結果では後足長は10頭平均11.4mmであった(林1999)。また、手掌(前足)の長さは6.2～6.9mm、幅は1.5～1.9mm(子安1998)。

国内分布 本州中部の北・中央・南アルプス、奥秩父、志賀山などに分布する。

県内分布 本県では1990年10月3日、白山釈迦新道(標高約950m)で採集され、白山地域(石川県)が日本における新たな分布地となった(子安ほか、1993)。その後、白山高山帯の調査によって11個体が採集され(子安・林1997)、さらに白山自然保護センターの収蔵標本から3個体確認された。これら15個体の標本のうち14個体は白山の亜高山帯から高山帯のものであった。県内における分布は2メッシュであった。

生態 亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林帯、草原帯に生息する。生態については明かではない。白山高山帯の繁殖期は、7～9月で、胎仔数6(1例)が知られている(子安・林1997)。

生息地の条件 主に白山地域の亜高山帯～高山帯。

生存の危機 白山地域の山地帯、亜高山帯、高山帯の保全が継続的に必要。(A)

特記事項 白山の地域個体群の亜種記載の検討が望まれる。

参考文献 子安和弘 1995. 白山のトガリネズミ類。はくさん22. 2-5. 石川県白山自然保護センター。
子安和弘 1998. 日本産トガリネズミ亜科の自然史(阿部永・横畑泰志 食虫類の自然史), 201-267. 比婆科学教育振興会(広島県庄原市)
子安和弘・原田正史・野崎英吉 1993. 石川県白山麓におけるトガリネズミの捕獲記録。石川県白山自然保護センター研究報告. 20. 33-34.
子安和弘・林哲 1997. 白山高山帯における野生小哺乳類。石川県白山自然保護センター研究報告. 24. 23-32.



写真提供者: 石川県白山自然保護センター



県内の分布

ヒメホオヒゲコウモリ

Myotis ikonnikovi Ognev

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

ブナ林帯より上部の原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。

国内分布

日本では北海道、および中国地方を除く本州から知られる。

県内分布

白山市白峰の市ノ瀬六万山周辺と同市中宮の3箇所それぞれで各1頭がそれぞれ捕獲されているのみである。

生態

昼間のねぐらは樹洞と思われるが、本州の一部では家屋でも繁殖をしている。初夏に1仔を出産する。

生息地の条件

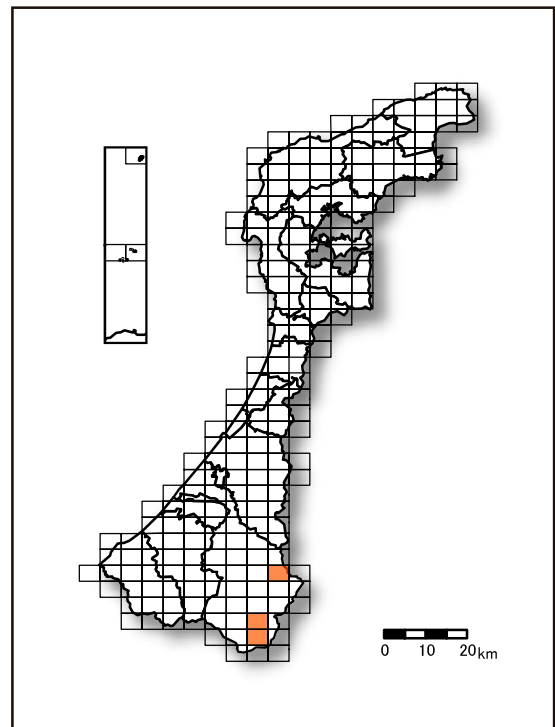
原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。

生存の危機

白山周辺で行われてきた天然林の伐採により、徐々にその生息地及び生息数が減少しているものと考えられる。(A)

参考文献

- 佐野明・上馬康生 1981. 白山地域に生息する翼手類について. 石川県白山自然保護センター研究報告. 7:23-29.
山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編). 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.
山本輝正 1998a. 3-1-2 哺乳類 コウモリ目, 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山)報告書. 142-147.
山本輝正 1998b. 3-2-2 白山地域のコウモリ類, 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山)報告書. 227-235.
山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年～2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告. 32: 25-30.



県内の分布

カグヤコウモリ

Myotis frater Allen

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ なし

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

本州の岐阜・石川両県以北、北海道から知られるが、分布が確認された都道府県は10に満たない。

県内分布

白山地域を中心とした山地帯で見られる。

生態

1年を通じて樹洞を昼間のねぐらとするものと思われるが、少数が洞穴にいた例も知られるほか、ときどき家屋内で100頭を越える大きな繁殖集団を作ることが知られている。初夏に1仔を出産。出生後は約30日で親と同じくらいの大きさになり飛翔を始める。雌は1年3~4ヶ月で交尾し、満2才で出産する。夜に飛翔する昆虫類を捕食する。

生息地の条件

本州中部地方より北の自然林に生息する。

生存の危機

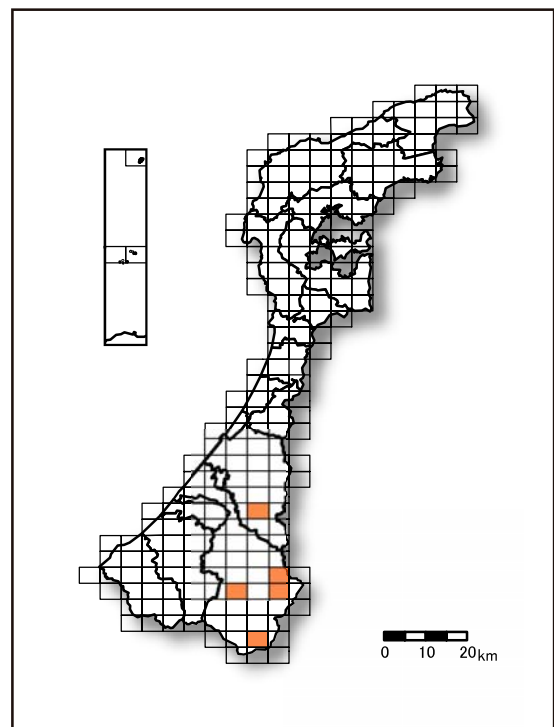
生息可能な森林が急速に減少しており、森林の保護が望まれる。(A)

特記事項

白山地域での生息個体数は、かなり多いものと予想される。広範囲にカグヤコウモリの生息可能な樹洞かそれに類した構造物が存在しているものと考えられる。以上より白山地域の森林（特に樹洞を持つような巨木のある森）の保護が望まれる。

参考文献

- 佐野明・上馬康生 1981. 白山地域に生息する翼手類について, 石川県白山自然保護センター研究報告, 7: 23-29.
- 山本輝正 1998. 3-1-2 哺乳類 コウモリ目, 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山)報告書, 142-147.
- 山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相, 石川県白山自然保護センター研究報告, 29: 73-76.
- 山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年~2005年の調査結果より—, 石川県白山自然保護センター研究報告, 32: 25-30.



県内の分布

ヤマコウモリ

Nyctalus aviator Thomas

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ 準絶滅危惧

選定理由

樹洞にのみ生息し、季節や性により使う樹洞が変化するため、比較的多くの樹洞が存在する森や林がないと生存が難しい。

国内分布

北海道、本州中部以北、対馬、壱岐、福江島、沖縄島だけである。

県内分布

ねぐらは、金沢市内の1箇所である。これまでの生息記録は、白山周辺1箇所と金沢市内の3箇所である。

生態

昼間の生息場所は樹洞。出産・哺育は雌だけの20～50頭以上の大きな集団で行われる。その間、雄は1～十数頭に分散して小樹洞、小鳥用の巣箱などを利用する。それ以外の季節は雌雄一緒になり、50～100頭を越えるより大きな集団で大樹洞を利用する。

生息地の条件

樹洞を持つ木の多く存在する森や林。

生存の危機

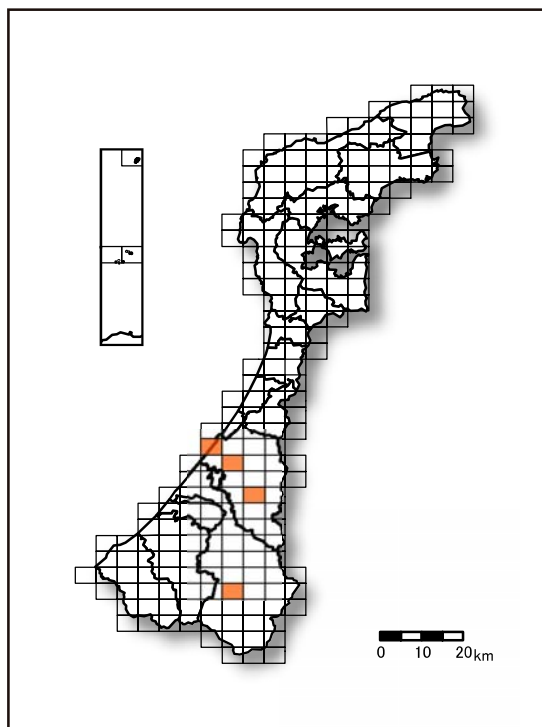
樹洞を持つ木の多く存在する森や林が徐々に減少しているため、全国的に生息数は減少している。
(A)

特記事項

採餌している個体が捕獲されたことから白山山系のどこかにねぐらがあるものと考えられる。石川県に生息する本種は、きわめて数が少ないものと考えられる。

参考文献

上馬康生・南他喜男 1984. 金沢市内で発見されたヤマコウモリの冬眠例. 石川県白山自然保護センター研究報告. 11. 85-86.
山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物. 石川の生物編集会(編). 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.
山本輝正 1998. 3-1-2 哺乳類コウモリ目. 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山)報告書. 142-147.



県内の分布

ヒナコウモリ

Vespertilio superans Thomas

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ なし

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

日本では北海道、本州（中国地方を除く）、四国、九州からの採集記録があるが、出産・哺育地として確認されているところは現在たいへん少ない。

県内分布

白山市白峰の別当出合の休憩舎の案内板で休んでいる雄雌各1頭と同市中宮で授乳中の雌1頭が確認されている。

生態

大木の多い地域では1年中集団で樹洞を昼間の隠れ家に行っているが、家屋や海蝕洞なども繁殖の場所として利用する。冬眠場所については知られていない。初夏に1~3仔、多くは2仔を雌親ばかり100頭を越える出産・哺育集団で出産する。授乳期間は約35日であり、出生仔は生後5~6週間でほぼ親と同じ大きさになる。雌雄ともに生まれた年の秋に交尾に参加するため、雌は満1歳で出産する。

生息地の条件

東北地方には多く観察されるが、他の地域では原生林などで数例確認されるのみである。

生存の危機

本来の生息場所は樹洞と考えられるが、家屋での生息が東北では多く確認されている。本来の生息場所の減少と考えられる。(A)

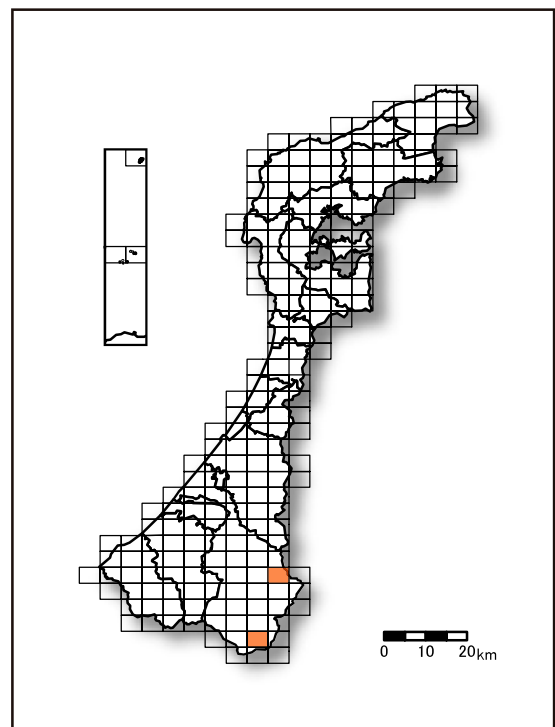
特記事項

県内で授乳中の個体が捕獲されたことより、白山地域で出産哺育を行っているものと考えられる。

参考文献

上馬康生・三原ゆかり 1995. 石川県内白山地域で捕獲されたヒナコウモリ, 石川県白山自然保護センター研究報告, 22:17-18.

山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年~2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告, 32:25-30.



県内の分布

ウサギコウモリ

Plecotus auritus (Linnaeus)

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ なし

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

日本では北海道、本州（中国地方を除く）、四国から知られているが、この25年には北海道、東北地方を除くと、尾瀬、富士山、北・南アルプス山麓、白山、紀伊半島、剣山、石鎚山で知られている。

県内分布

白山地域の周辺部などで、人工的な建築物を昼間と夜間のねぐらとして利用している個体が確認されており、白山地域では広範囲に生息していたものと考えられる。

生態

大木の多い地域では昼間の隠れ家として樹洞を集団で利用するが、洞穴や家屋もよく使う。初夏に1仔を出産する。

生息地の条件

自然がよく残っている森林を生息場所としている。

生存の危機

もともと大きなコロニーが確認されたことが無く、生息場所の減少が、減少に拍車をかけている。
(A)

特記事項

1990年以降石川県においては、生息の確認できた場所はない。

参考文献

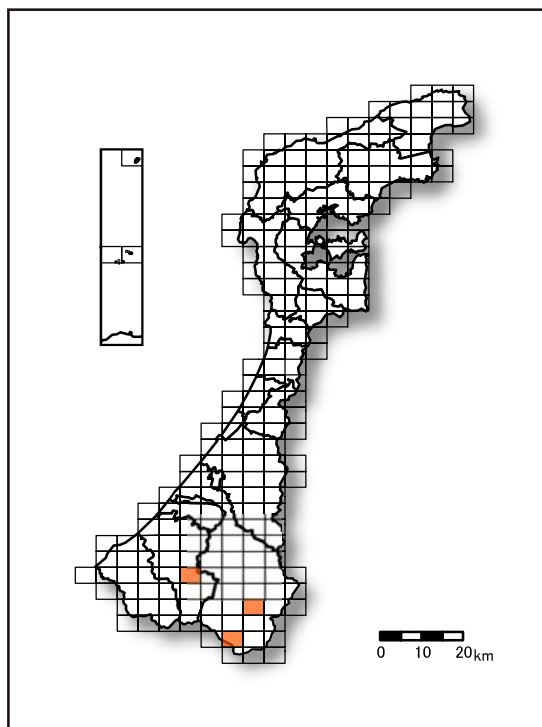
佐野明・上馬康生 1981. 白山地域に生息する翼手類について, 石川県白山自然保護センター研究報告, 7. 23-29.

山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編), 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.

山本輝正 1998. 3-1-2 哺乳類 コウモリ目. 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山) 報告書.



写真提供者: 石川県白山自然保護センター



県内の分布

テングコウモリ

Murina leucogaster Milne-Edwards

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

北海道、本州、四国、九州から知られる。

県内分布

白山周辺など4箇所を確認されている。

生態

大木の多い地域では樹洞を屋間の隠れ家にするが、洞穴内でもよく見つかる。しかし、単独でいることが多く、10頭を越える群れはほとんど見つからない。夜には隠れ家から出て、飛翔する昆虫類を捕食する。一般に森林内の下層で捕食するらしい。出産は初夏に行われる。

生息地の条件

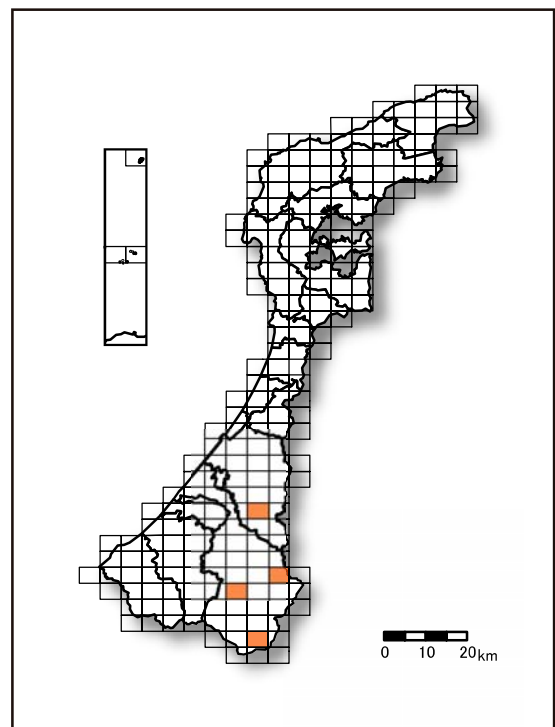
自然林内に生息。

生存の危機

その分布などがよく分からないうちに、生息環境が開発されてしまっている。(A)

参考文献

- 佐野明・上馬康生 1981. 白山地域に生息する翼手類について. 石川県白山自然保護センター研究報告, 7: 23-29.
山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編), 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.
山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 29: 73-76.
山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年~2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告, 32: 25-30.



県内の分布

コテングコウモリ

Murina ussuriensis Ognev

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由 全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布 北海道、本州、四国、九州、対馬、奄岐から知られるが、生息確認は20道県からに満たない。

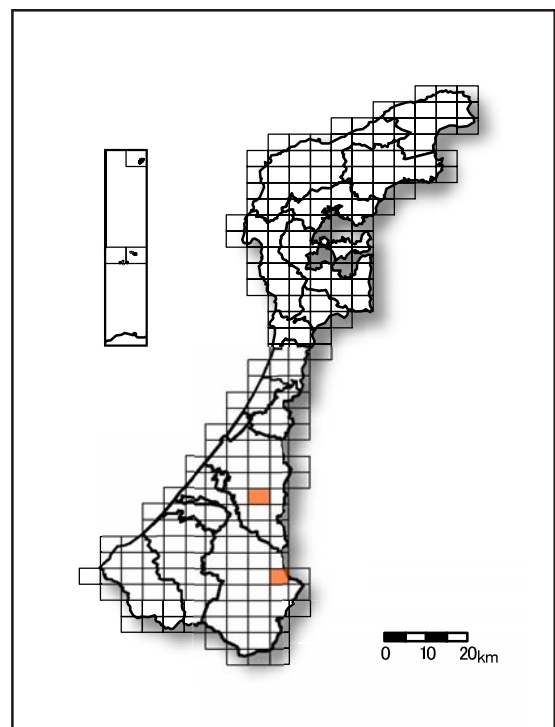
県内分布 白山周辺で2例確認されている。

生態 昼間の隠れ家は基本的には樹洞のようであるが、木の茂み、樹皮の間隙、落ち葉の下、洞穴内、家屋内でも見つかっている。夜間に樹間、葉間を飛翔する昆虫類を捕食するが、葉上に静止する昆虫類も捕食するらしい。1~2仔を初夏に出産する。

生息地の条件 原生林内に生息する。

生存の危機 分布などがよく分からないうちに、生息環境が開発されてしまっている。(A)

- 参考文献**
- 佐野明・上馬康生 1981. 白山地域に生息する翼手類について. 石川県白山自然保護センター研究報告, 7: 23-29.
 - 山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編), 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.
 - 山本輝正・野崎英吉 2002. 白山地域におけるコウモリ目相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 29: 73-76.
 - 山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年~2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告, 32: 25-30



県内の分布

ミズラモグラ

Euroscaptor mizura (Gunther)

モグラ目モグラ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

県内では、白山地域の山地帯から高山帯の限られた地域に分布する。日本固有種。

形態

モグラ属（アズマモグラやコウベモグラ）とミズラモグラ属とは口吻上面の裸出部が異なる。歯数はミズラモグラ属の44本に対してモグラ属は42本である（下顎切歯ミズラモグラ属3本、モグラ属2本）。体重26～35.5g、頭胴長80～106.5mm、尾長20～26mm、後足長13.5～15.4mmであるが（阿部ほか,1994）、白山の1個体の計測値は、体重26.8g、頭胴長86.6mm、尾長15.3mm、後足長14.1mmであった（白山万才谷み1996.10.6採集、子安和弘氏計測）。

国内分布

国内では広島から東北まで分布しているが、孤立分布を示し、中部地方の山岳地帯に多い傾向がうかがえる（阿部ほか,1994）。

県内分布

本県ではこれまでは12件（旧白峰村で9件、旧吉野谷村で3件）の資料があり、4メッシュの分布を示していた（林・子安1998、林,1999）。このうち、3件2メッシュは旧吉野谷村中宮地区、9件2メッシュは亜高山帯から高山帯の資料であった。その後、白山清浄ヶ原（2005年9月21日標高約2,300m）で採集され、1メッシュの分布地が増え、県内では5メッシュの分布となった。

生態

ミズラモグラは、モグラ亜科の中では「最初に大陸から日本へ入ってきた」原始的な種類と言われていた（今泉,1987）。昆虫類、ミミズ類、ジムカデ類、ヒル類などを食べる。

生息地の条件

亜高山帯、高山帯等では土壌のみられる場所で生息する。

生存の危機

白山地域では、礫地や岩場が多く、地域個体群としては脆弱性が高いと思われる。（A）

特記事項

日本哺乳類学会(1997)では山岳地に分布すること、生息密度が低いことから希少種にしている。環境省では本種を3亜種として準絶滅危惧種に指定している。

参考文献

- 林哲 1999. ミズラモグラ 石川県の哺乳類. 石川県.
林哲・子安和弘 1998. 白山地域のミズラモグラの分布. 石川県白山自然保護センター研究報告 25. 25-28.
今泉吉晴 1987. 空中モグラあらわる. 岩波新書.
日本哺乳類学会 1997. レッドデータ 日本の哺乳類. 文一総合出版.
阿部永・石井信夫・金子史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会.



県内の分布

オコジョ

Mustera erminea Linnaeus

ネコ目イタチ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ 準絶滅危惧

選定理由 本州の高山帯・亜高山帯に生息し、生息環境の改変により個体数が少ない。

形態 夏期には背面は褐色で腹面は白色。冬期には尾の先端部が黒いほか全身白色。成体では頭胴長140～198mm、尾長48～67mm、体重100g。

国内分布 本州の石川県以東の高山帯・亜高山帯に分布する。

県内分布 夏期には白山の亜高山帯以上の地域、冬期には白山市尾添、白峰の山地帯（標高600m付近）の雪上で白化した個体が観察されている。

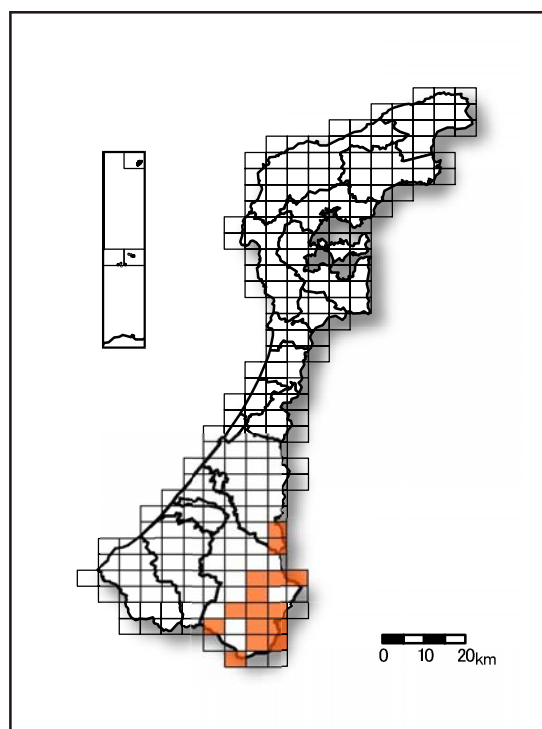
生態 高山帯の岩れき地に生息する。ネズミ類、鳥類の卵雛などを捕食するほか、果実を食べる。地上に現れることは少なく、地下の空間を利用して移動している。

生息地の条件 夏には、亜高山帯から高山帯が主な生息地であるが、積雪期には山地帯まで移動していると考えられる。

参考文献 水野昭憲・八神徳彦 1985. 白山亜高山帯・高山帯の動物, 哺乳類. 白山高山帯自然誌調査報告書 107-111. 石川県白山自然保護センター.
水野昭憲 1994. 白山山系のオコジョの分布. 石川県白山自然保護センター研究報告第21集. 21-26.
野柴木 洋・上馬康生 1998. 2-2-3 哺乳類 白山におけるホンデオコジョの繁殖及び分布状況について 環境庁委託業務報告書平成9年度生態系多様性調査（白山）報告書. 79-89.



写真提供者：谷野喜代子



県内の分布

ヤマネ

Glirulus japonicus (Schinz)

ネズミ目ヤマネ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ 準絶滅危惧

選定理由

本県における分布情報が少なく、加賀地域山間部に分布が限られる。日本固有種。

形態

ネズミに似るが、背中には黒色の一本の線があるのが特徴。頭胴長68～84mm、尾長44～54mm、後足長16～17mm、体重14～20gぐらいだが、冬眠前に体重は増えると言われている。

国内分布

地中海沿岸からヨーロッパ、小アジアに分布するが、日本のヤマネ*Glirulus japonicus*は独立種。本州、四国、九州、隠岐島後に分布し、日本固有で一属一種。

県内分布

石川県の哺乳類(林, 1999)では金沢市以北の白山地域で6メッシュの分布が認められていたが、その後、三原・野崎(2003)により5メッシュ増加した。また、1993年10月 白山市河内町旧奥池地域で目撃されていたことが判明し、合計12メッシュの分布地となった。白山市市原の標高230mで確認された場所以外はいずれも山地帯の600～1200mでの情報であった。

生態

山地帯から亜高山帯の主に落葉広葉樹林にすむ。夜行性で主に樹上で生活し、樹洞や時に巣箱を利用して樹皮やコケを利用した丸い巣をつくる。果実や種子を主に採食するが、昆虫類もよく食べる。晩秋の10月から11月に気温が10℃以下になると樹洞のなかや山小屋、旅館のフツンのなかで冬眠することがある。主に春に繁殖し、産仔数は3～5頭である。

生息地の条件

落葉広葉樹の多い森林を嗜好しているようである。

生存の危機

特にないが、落葉広葉樹林の保護・保全が必要。(A)

特記事項

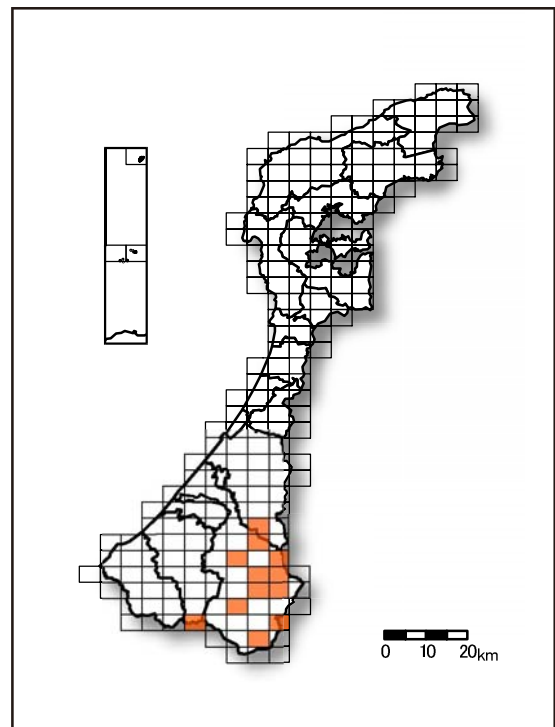
文化財保護法による天然記念物。鳥獣保護法では非狩猟獣。哺乳類学会(1997)では危急種に指定。

参考文献

林哲 1999. ヤマネ 石川県の哺乳類. 石川県.
三原ゆかり・野崎英吉 2003. 石川県内におけるヤマネの生息状況. 石川県白山自然保護センター研究報告30. 31-35.



写真提供者: 石川県白山自然保護センター



県内の分布

ホンドモモンガ

Pteromys momonga Temminck

ネズミ目リス科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

選定理由 加賀地域や白山地域の限られた地域に分布。日本固有種。

形態 ムササビによく似るが、ずっと小さい。尾はやや短く、目が大きく皮膜は小さい。背面は灰褐色から茶褐色。頭胴長15～20cm、尾長9～14cm、体重約200g。乳頭が5対(乳頭式2+2+1=10)で、タイリクモモンガ(エゾモモンガ)の4対とは異なる。

国内分布 本州、四国、九州に分布。

県内分布 これまで旧6市町村で10件の情報が得られ7メッシュの分布が知られていたが(林, 1999)、その後、2005年10月2日に白山市瀬波(キャンプ場、標高約340m)、2007年4月24日白山市中宮(集落近く、標高約400m)で確認された。その結果、8メッシュの分布となった。

生態 本種は北方系で寒冷な地方に多く、温暖な地方にはすくない。山地の森林に棲む。ムササビのように滑空する。夜行性で堅果、果実、木の芽、昆虫などを食べる。スギ、ヒノキなどの樹洞に巣を作る。ときどき枝に樹皮や葉を集めて球形の巣を作ることもある。

生息地の条件 低山帯から山地帯を主な生息地にしている。

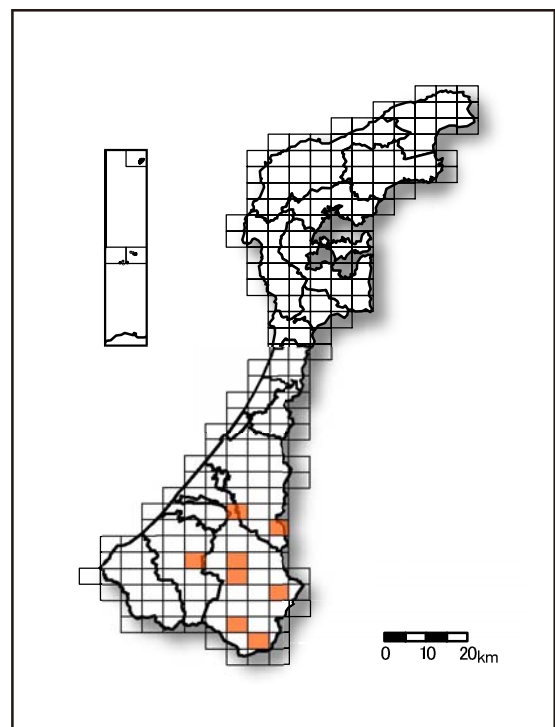
生存の危機 情報が少ないため、生息調査が必要である。(A)

特記事項 本種の生態に関する情報量が少なく、不明の点が多い。日本哺乳類学会(1997)では、普通種。九州地域は保護すべき地域個体群に指定。

参考文献 林哲 1999. ホンドモモンガ 石川県の哺乳類. 石川県.
日本哺乳類学会 1997. レッドデータ 日本の哺乳類. 文一総合出版.



写真提供者: 林哲



県内の分布

カヤネズミ

Micromys minutus (Pallas)

齧歯目ネズミ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由 河川、湖沼、水田周辺の不安定な草地にのみ生息し、生息環境の改変により個体数が少ない。

形態 背面は暗褐色で覆面は白色。成体では頭胴長50～80mm、尾長61～83mm、後足長14～17mm、体重7～14g。乳頭式2+0+2=8。

国内分布 本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では山形県以南、四国、九州、隠岐諸島、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島などに分布する。

県内分布 能美市（旧辰口町）、白山市（旧鶴来町）の手取川河川敷や、加賀市の鴨池、大聖寺川下流部、上野、金沢市の金腐川、大宮川、角間、小松市滝ヶ原、能美市徳山で採集されたり巣が確認されている。能登地方では宝達志水町、七尾市、輪島市、中能登町、珠洲市で聞き込みにより営巣の情報が得られたが本種のもものと確認されていない。

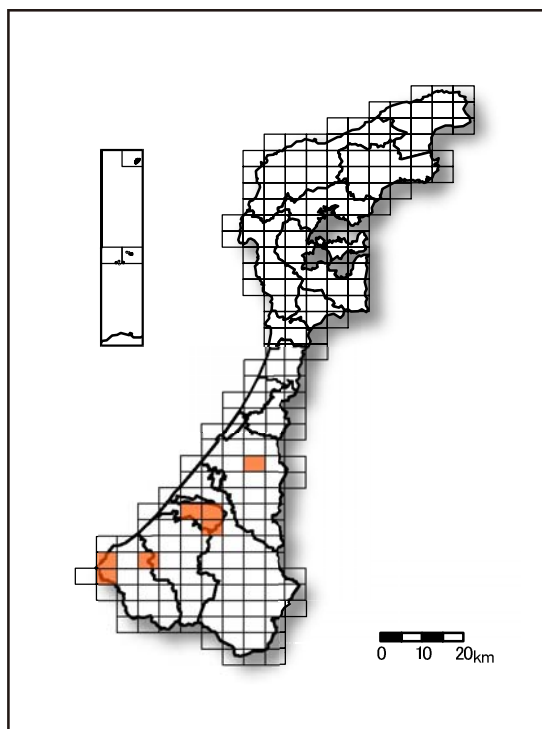
生態 低地の河川敷、草地、水田、沼沢地などイネ科・カヤツリグサ科植物が密生する場所に生息する。アシ、ススキ、チガヤなどを用いて、地上70～110cmに球型の巣を作る。冬期には畦道の地表堆積物や地下の孔道にも生息する。

生息地の条件 イネ科・カヤツリグサ科植物が密生する環境が維持され、春から秋にかけては刈り払いが行われず、営巣の妨げにならないことが必要。この時期の刈り払いでは、部分的な刈り残しがカヤネズミの避難場所となり有効である。冬期は、地上および地下で生活するため冠水しない場所が必要だが、春から秋にかけては他のネズミとの競争を避けるため一時的な冠水があったほうが良い。冬期の刈り払い火入れは、草地の維持のため実施した方が良いと思われる。

生存の危機 河川改修による自然草地の消滅や、河川管理による広い面積の草地の夏期一斉刈り払いは営巣地を破壊する可能性がある。生息地では部分的な刈り残しが望まれる。(A)

参考文献 澤邊久美子、畠佐知子、夏原由博 2005. 堤防植生の刈り取りがカヤネズミ *Micromys minutus* の営巣に与える影響. ランドスケープ研究Vol.68.5
阿部 永ほか 2005. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 神奈川.

写真(図)はありません。



県内の分布

カワネズミ

Chimarrogale platycephala

モグラ目トガリネズミ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

県内では、主に加賀地域や白山地域の河川源流域に分布する。日本固有種。

形態

トガリネズミの仲間で、水辺に適した手足を持つ。指の剛毛と尾に生えた長い毛がある。門歯はカギ状に曲がっている。体重約25～63g、頭胴長111～141mm、尾長82～117mm、後足長23～29.4mm(阿部ほか、2005)。

国内分布

本州、九州に分布する。

県内分布

県内にはこれまで旧白峰村市ノ瀬、小松市上大杉の2件の標本と聞き取り調査を併せた分布は11メッシュであったが(林、1999)、その後、能美市(辰口)蟹淵(1998.11.12)、白山市(旧白峰村)大道谷(1999.7.10)、白山市(旧鳥越村)渡津(2000.10.)の3件が確認され、2メッシュ加わり、県内分布は13メッシュとなった。

生態

山間の溪流にすみ、水生昆虫や魚類を食べる。河畔の土中や石の下に巣をつくる。春と秋に2回繁殖し、1～6頭の仔を生む

生息地の条件

主に加賀地域の河川流域。加賀地域の河川源流域や支流域ではもっと生息している可能性がある。

生存の危機

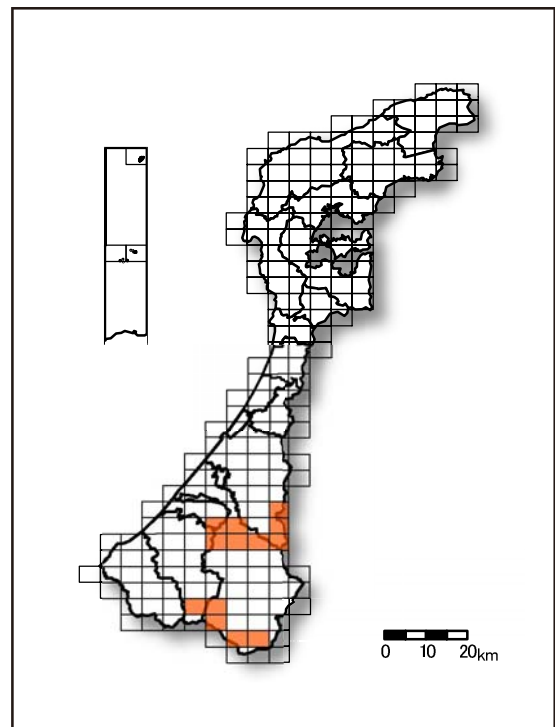
堰堤やダム造成によって本種の生息環境は劣悪になっているので、特に河川上流域の開発行為には留意を要する。(A)

参考文献

阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 2005. 日本の哺乳類 東海大学.
林哲 1999. カワネズミ 石川県の哺乳類 石川県出版会.



写真提供者:林哲



県内の分布

シントウトガリネズミ

Sorex shintou

モグラ目トガリネズミ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

県内では、白山地域の山地帯から高山帯を中心とする限られた地域に分布する。日本固有種。

形態

トガリネズミ類では中型で尾が長い。夏毛の背面は赤褐色、腹面は薄茶色。体重3.9～13.5g、頭胴長52～78mm、尾長40～55mm、後足長11.4～13.5mm(阿部ほか 1994)。アズミトガリネズミよりやや大きいのが外形は酷似。後足長は白山地域では12mm以上の個体が多かった(採集された10頭平均で12.3mm。子安 1995、子安・林 1997)。頭骨全長ではアズミトガリネズミより顕著に小さい(16.5mm以下)(阿部ほか 2005)。

国内分布

佐渡島および本州の紀伊半島、京都府以北および四国の山地に分布する。

県内分布

県内では山地帯から高山帯にまで分布する(花井 1978、子安・林 1997、水野・八神 1985、信太 1983)。このうち、白山市一里野(尾添)で採集された個体が本種の低標高地域(標高約540m)の分布地である。これまでの資料から県内では5メッシュの分布を示している(林 1999)。

生態

森林や低木林などの落葉層や腐食層にすみ、昆虫やクモ類、ジムカデ類を食べる。春に2～6頭の仔を産む(阿部ほか 2005)。

生息地の条件

主に白山地域の山地帯～高山帯。

生存の危機

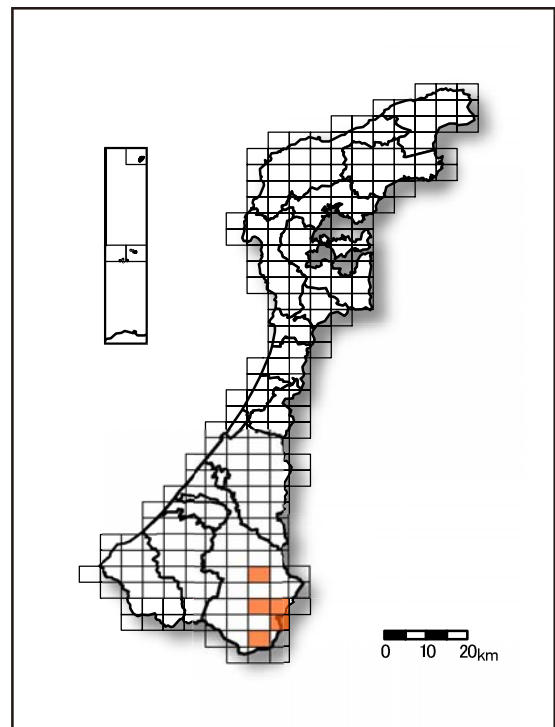
白山地域の山地帯～高山帯の保全が継続的に必要。(A)

参考文献

- 子安和弘 1995. 白山のトガリネズミ類. はくさん22. 2-5. 石川県白山自然保護センター
子安和弘・林哲 1997. 白山高山帯における野生小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告 24. 23-32.
花井正光 1978. 白山高山帯の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告. 4: 83-92.
信太照夫 1983. 白山北稜の小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告. 9: 57-65.
水野昭憲・八神徳彦 1985. ほ乳類(白山高山帯自然史調査報告書, 107-111). 石川県白山自然保護センター.



写真提供者: 林哲



県内の分布

ヒメヒミズ

Dymecodon pilirostris

モグラ目モグラ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由 県内では、白山地域の山地帯から高山帯を中心とする限られた地域に分布する。日本固有種。

形態 外形はモグラとトガリネズミの中間ぐらいの小型のモグラ類。吻は非常に細長く、耳介を欠く。手の巾が長さより小さく、爪は扁平で真直ぐ。上顎の門歯は大きく、先端がへら状。下顎歯数は片側9本（うち前臼歯4本）（ヒミズは下顎歯数8本でうち前臼歯3本）。背面が黒色または黒褐色、腹面は淡色。体重約8～14.5g、頭胴長70～84mm、尾長32～44mm、後足長12.8～15.2mm（阿部ほか 1994）。

国内分布 本州、四国、九州に分布する。

県内分布 県内では金沢市、白山市（旧吉野谷村、尾口村、白峰村）で49件78頭の資料が得られ、13メッシュに分布している（林・子安,2000）。白山地域の高標高地では白山四塚山(2450m)やトンビ岩周辺(2400m)など、低標高地では金沢市二又地域（標高400m）や白山市（旧尾口村）釜谷（標高500m）が知られている。富士山、磐梯山、丹沢山など国内のヒメヒミズの分布の下限域はおおむね標高約1,000mと言われているので（今泉,1973、木村,1984、小林・山口1971）、白山地域の低標高地の分布は全国的には希少と思われる。

生態 比較的標高の高い地域の草地、低木林、高木林の落葉層や腐食層にすみ、主に昆虫類やミミズ類を食べている。近接地にヒミズが生息している場合、本種は土壌の浅い場所や岩礫地に住んでいることが多い（阿部ほか,1994）。

生息地の条件 主に白山地域の山地帯～高山帯。

生存の危機 白山地域の山地帯、亜高山帯、高山帯の保全が継続的に必要。（A）

特記事項 日本哺乳類学会(1997)では普通種として記載。四国、九州、紀伊半島は保護すべき地域個体群としている。

参考文献 林哲・子安和弘 2000. 石川県におけるヒミズ類の分布. 石川県白山自然保護センター研究報告. 27:29-36.

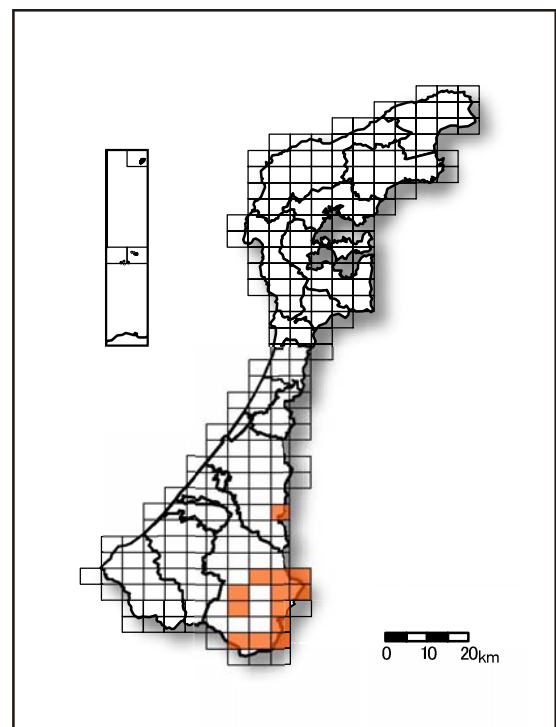
今泉吉晴 1973. 富士山麓・青木が原の地下生活者 アニマ9. 4-20. 平凡社.

木村吉幸 1984. 磐梯山地域における食虫類とネズミ類の群集密度について. 哺乳動物学雑誌. 10(2). 87-97.

小林峯生・山口佳久 1971. 丹沢山塊におけるヒメヒミズの分布と小哺乳類相について. 神奈川県立博物館調査研究旧報告. 自然科学. 4. 1-23.



写真提供者：子安和弘



県内の分布